

アートギャラリー×アフリカ理解プロジェクト 第1回パブリック・プログラム報告書

南青山に2024年4月にオープンしたアフリカンアートギャラリー「space Un」のパブリック・プログラムの企画と実施を担当しました。

第1回 アフリカのお話と創作体験

～アフリカの国旗のお話とビーズ・アクセサリーづくり～



目的：アフリカと現代アート、日本とアフリカの関係性について、交流や対話を生み出すアーティストトークやワークショップなどの教育活動を目的とする。

ねらい：本ワークショップでは、こどもたちとその保護者と対話しながら、

- ・アフリカンアートについて学ぶ（知識を得る）
- ・アフリカ大陸それぞれの国に、歴史や文化があることを国旗から知る
- ・自分が選んだ国旗でアートなビーズ作品をつくる
- ・作品づくりのなかで対話を通じて、グローバルな視野を持つ人材を育成することをねらいとする。

企画・運営：アフリカ理解プロジェクト
日時：2024年6月16日（日）13：00～16：00

セネガル人アーティストのアリウ・ディ
アック（1987～）個展「Anastomosis
（アナストモーシス）」の会期中

会場：space Un（スペース・アン）
ギャラリー

参加費：¥1000

対象者：こども（5歳以上）から大人までどなたでも

申し込み方法：事前予約、当日受付も可

実施方法：ワークショップ人数 1回（15名）×2回 合計30名

ワークショップ時間：1回45分

※実施例 1回目 12：50受付 13：00～13：45
2回目 15：00受付 15：15～16：00

当日のワークショップの様子



今年（2024年）4月にオープンした南青山にあるアートギャラリー「space Un」で、「アフリカのお話と創作体験」のワークショップを企画担当しました。



ワークショップは日曜日の午後2回に分けて行いました。参加者はアフリカの国旗の話を中心に熱心に聞き、国旗色のビーズ・アクセサリーや創作ネックレスづくりをして楽しい時間を過ごしました。

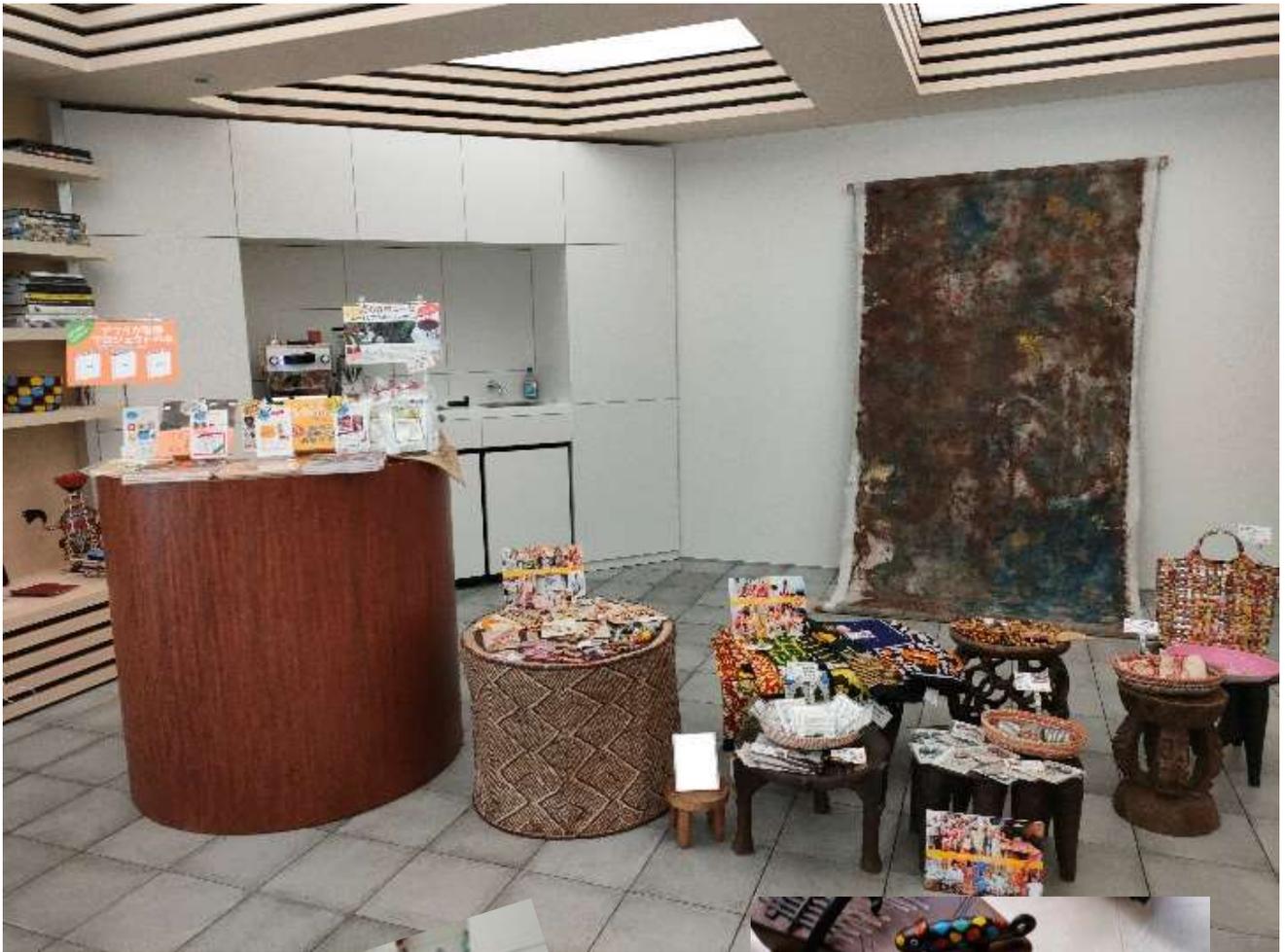


アフリカ 54 か国の中から気に入った配色の国旗を選び、ビーズプレスレット、ストラップ、創作ネックレスの3種をつくりしました。みなさんセンス良くすてきなアクセサリが完成しました！



撮影にご協力くださったみなさま、ありがとうございます！





space Un さんのご協力で、プロジェクトが支援しているアフリカのアーティストやアーティストの商品を展示販売することができました。書籍も好評でした。

当日の写真をタンザニアのアーティストさんたちに送ったところ、とても喜んでくれました。ご購入くださった皆さまありがとうございます！

参加者の声（アンケートより）

- 国旗の由来や覚え方など、写真をみながら知ることができました！3種類のアクセサリーをつくることができ、国を3つ覚えました。今日は楽しい企画をありがとうございました。（20代）
- 国旗について初めて考えた。5歳の子も自分で作れた！とても楽しい企画だった。（30代）
- スタッフの方が多く、声をかけてくれた。3つも作れてゆっくりに作れて楽しかった。次回も楽しみにしています（30代）
- 国旗の豆知識などを一緒に織り交ぜながらの説明でよくわかった。国旗の色に合わせてビーズプレスレットを作る中で、国々の関係性などを考えることができた。今回のワークショップ大変楽しませていただきました。最近アフリカの国々の文化に興味を持った身としては、素敵なイントロでした。ほかのワークショップも楽しみです。（20代）
- 資料が分かりやすかったです！3つもアクセサリーを作れて満足でした！（20代）
- スタッフの対応が丁寧でよく目配りをしてくれていました。自分の個性が活かされた。とても楽しかったです。アフリカに行って見たくなりました。（30代）

今回、講座で販売した新刊です！

『アフリカでアーティスト&アーティザンと私たちがモノづくりした話+アフリカ8つの楽しみ方』

定価 1800+税 ISBN978-4-9904657-5-9

1章は、モノづくりの話です。



アフリカ各国は、いま観光産業に力を入れており、政府も伝統的な工芸品や土産物産業の育成に積極的です。人の手でつくる手工芸品は、設備投資に資金がかからないうえ、多くの雇用を生み出します。私たちは今から13年前、アフリカの小さな生産者グループとモノづくりをはじめました。そのなかで「モノづくりは人づくり」でもあることなど、多くの知見を得ました。新型コロナウイルス感染症パンデミックでは、観光客を失い収入が激減したアーティストやアーティザンとオンラインを活用し、世界中どここの国や地域からでもできる生産者支援もはじめました。第1章では、アフリカでの「モノづくり」や「ボーダレス時代の新たな支援の方法」の経験と学びを共有しています。

